

れ、地域的にまとまっていることが明らかとなった。さらに、このような細胞質捕獲が生じた集団遺伝学的メカニズムの解析を行うことを目的とし、分子遺伝学的マーカーを用いて、集団の遺伝的変異性の定量化を行っている。本研究に用いたサンプルの証拠標本を植物園にて作成した。

本研究の成果の一部を日本植物学会第62回大会（1998年9月 広島）にて発表した。

（先生真弓 金沢大学大学院自然科学研究科）

## 5 RNA editing の系統的解析

小葉類のRNA editingについて解析するため、材料のコンテリクラマゴケ *Selaginella uncinata*, ミズニラ *Isoetes japonica*, ヒメミズニラ *Isoetes asiatica*, ミズスギ *Lycopodium cernuum* を植物園で栽培している。これらからDNAおよびRNAを抽出し、PCR法により *rbcL*, *atpB* 領域を増幅させた。その後オートシーケンサーにより配列を決定している。*rbcL* 領域の配列は決定し、RNA editing が起きている場所を確認した。配列をアミノ酸配列に変換し、法則性がないか検討中である。*atpB* 領域についてはまだシーケンスを行っているところである。

（辻 澄香 金沢大学大学院自然科学研究科）

## 6 センリョウ科3種の受粉生物学的研究

センリョウ科 *Chloranthaceae* は古草本類のひとつとして知られる原始的被子植物群である。日本に自生するセンリョウ科2属4種のうち、ヒトリシズカ *Chloranthus japonicus* Sieb., フタリシズカ *C. serratus* (Thunb.) Roem. et Schult., センリョウ *Sarcandra glabra* (Thunb.) Nakai の受粉様式を明らかにすることを目的とし、開花過程の観察、交配実験および訪花昆虫の採集及び訪花行動の観察を行った。本年度は、石川県金沢市医王山および岐阜県古城郡丹生川村瓜田にて交配実験および訪花昆虫の採集をし、実験道具の作成、標本の作製、播種実験や研究材料となる植物の栽培を植物園にて行った。

フタリシズカの受粉様式に関する研究の結果を日本植物学会第62回大会（1998年9月 広島）にて発表した。

（戸崎弥生 金沢大学大学院自然科学研究科）

## 7 モウセンゴケ属3種の生活史の比較研究

1997年春から、モウセンゴケ属の3種、モウセンゴケ、トウカイコモウセンゴケ、コモウセンゴケの生活史の比較研究を行っている。1998年度もこれを継続した。コモウセンゴケは愛知県常滑市の1カ所、トウカイコモウセンゴケは滋賀県竜王町、石川県小松市の2カ所、モウセンゴケは竜王町の1カ所に方形区を設置した。各方形区内の全個体の位置、サイズ、開花フェノロジーを月に一度調査した。また、植物園において3種を栽培し、開花フェノロジーを記録した。野外で採集した種子を使用して播種実験も行った。これらの調査で得られたデータをもとに、植物園のコンピューターを用いて解析を行った。

本研究は、金沢大学自然科学研究科修士論文として金沢大学に提出し、一部は日本生態学会第45回大会（1998年3月 京都）で発表した。

（中野真理子 金沢大学大学院自然科学研究科）

## 8 コナラとアベマキの発芽率と死亡要因

本植物園では109ha 敷地内の山林等として残されている場所を環境保全自然研究林として位